

臺灣の工藝産業に就いて

顔水龍

まへがき

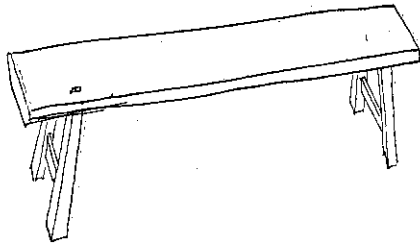
臺灣には美術工藝として推奨すべきものは少ないが生活に即した産業的工藝品が極めて多く、又高砂族の固有工藝は世界に誇るべき優秀性と異色に富んでゐることは一般周知の如くである。此等は確固たる古い傳統によつて、明確な様式を保ち、或は獨特の技術を繼承して來てゐることは誰が見ても明らかである。これ等は原材料も亦臺灣特有のものを使用してゐるから臺灣の工藝産業として持続性があり十分に發展性があると思ふ。

中でも固有工藝は本島工藝産業の發展と、最も重要な根幹をなすものであるが、残念ながら最近に至つて其の異色を失はんとしつつある。辛うじて傳へられてゐる様式は業者の爲に濫用され、樂しんで製作してゐたその領域を浸蝕されて固有工藝の眞價は胃潰されて來た。

併し、茲に正しい指導機關と統制機構の施設さへあれば將來の發展は必ず約束されるであらう。それではこれから臺灣産業工藝の生産種目と各部門の現況を紹介して大方の参考に資し、引いては臺灣工藝に關心を寄せ、且つ御聲援を賜ふことを得ば臺灣工藝復興運動に携つてゐる同志と共に筆者の欣懐とする處である。

・木工 家具類

臺灣の生活様式は南支那に酷似して居て、寢臺、卓子、椅子などを使用してゐる關係上、昔から多種多様な木工家具が作られてゐる。寺廟には神卓と祭具があり、家庭には正廳に具へる神卓が頂卓と下卓でセットをなし、正廳の左右の壁面には應接用の四角張つた椅子即ち學士椅が小さい卓子を挟んで二脚宛置いてある。其の他に食卓があり、これに調和する分厚い長い一枚板に四本の脚を付けた

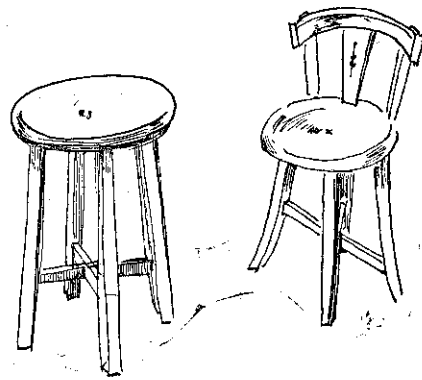


條が具へてある。そして寢室には彫刻

を施した豪華な寢臺があり、卓子、

椅子、鏡臺兼洗面臺、箆笥等實に面白い意匠を凝したものである。厨房には食器棚、食料品、調理臺等があつて、大體一つの様式で纏められてゐる。此等の用材は總べて臺灣産の楠仔たが、烏心石、梅檀せんた、檜龍顏材等であつて、傳統的様式のものであるから材料を思ひ切つて量的に使つてゐ

・椅子



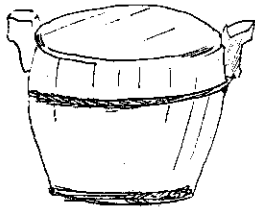
新しい建築も在來の夫と比較して、ひげ目を感じるから、まして新しい家具に期待を掛けることは無理であらう。

此等在來の家具には浮彫、透彫、線彫、或は象眼等が用ひられてゐる地方的に可成りの變化がある。例へば舊都臺南では浮彫、鹿港では透彫と象眼が主で嘉義、臺中以北はカマボコ形の直線的裝飾があり、澎湖では大まかな形態を以て全體の調和を計つてあるだけである。

桶類

生活用具としての桶類は各地各所に製作されてゐる。在來からのものには糞桶、痰壺、洗濯用兼行水用の腰桶、飯桶（以上朱塗）洗面用の面桶、浴桶

・飯桶



るし、その意匠が彫刻を施したのもあれば或は象眼又は簡単な直線を以つて椽付けし、昔ながらの建築様式に調和してゐるところが近時、日本

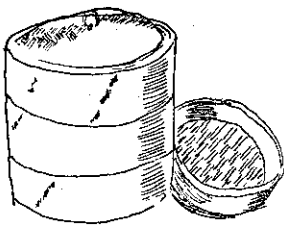
風と歐風の建築様式を取り入れるやうになつてから自然に此等の家具も一變しつゝあるがそれ等は概して貧弱である。尤も

水桶等で大きいものには農具の椶落桶即ち粟桶、染色用の藍桶等非常に種類が多いが形の良いものは糞桶、腰桶、手提水桶、飯桶などで極めて健康的な用具である。大東亞戦争が勃發して以來、金屬製品の代りに登場したものにバケツ、洗面器代用のものが數種類あるがよいとは思はれない。然し生産は非常に活潑である。以上のものは杉檜を材料としてゐる。

小木工品

輻輳製品では机の脚、電気スタンド、手摺、盆、茶托、ボタン等を初め玩具類、小箱類、臺灣下駄等があり、彫りものでは佛壇、位牌、欄間、神棚等がある。彫りものは何と云つても臺南、彰化、鹿港から優秀品が出て居り、特に臺南市には昔から有名な木匠街があつて、店が軒を連ねてゐたが八、九年前から趣味の悪い簞笥、洋服ダ

・籠



ンス、鏡臺、化粧臺等が黄ばい色で塗られて、これ等の店頭を滿たし、田舎の嫁入道具に當てられてゐる現状である。昔のやうに特技を競ふやうなことはなく、折角腕のよい工人達も生活のために何處かへ四散してしまつて、賃銀のよい荒仕事に早變りしたことであらう。

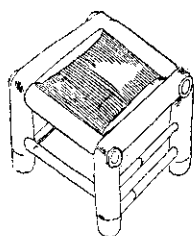
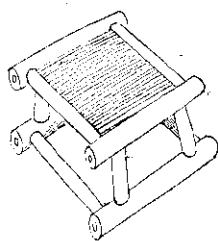
高砂族の木彫にも建築の柱、人物像、スプン、パイプ、釣箱、聯杯、劍の鞘等に施した彫物などに愛すべきものが澤山あつたが最近では勞務に忙がしいため、生來の技術を楽しむ餘裕がないであらう。

以上の用材は楠仔、樟、龍眼、加荖、烏心石、黃楊、石柳等で殊に臺南の名物象眼細工の如きは暗黒色の加荖材に黄楊の明色を嵌めるので俗に「茄椗入石柳」と云つて昔から名高い優秀な木工細工である。

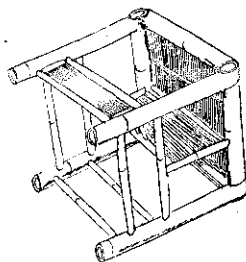
もう一つ書き加へて置きたいのは亞杉の經木で作つた蒸器即ち籠、蒸で此の種の製品として稀に見る形のよい然も丈夫なものである。

・竹 工・

竹材は臺灣の山野、或は住宅の周圍に無盡藏に繁殖してゐる。成長も早いので、竹材の利用は今後とも益々有利であることは言ふ迄もない。竹の種類には、刺竹、桂竹、麻竹、長枝竹、綠竹等あり、其の性能も亦夫々變つてゐて、その用途も建築に家具に或は編組、製紙等に亘り利用範圍が極めて廣い。農村には堂々たる竹の家屋があり、穀倉があり、漁村には竹筏があり、漁具がある。竹の編組は又臺灣工藝の大きな生産面を成してゐる。これは全島に最も普遍的に行はれてゐるので方々に竹細工の名人が散在してゐて特殊製品の注文を受けてゐる。主な産地としては臺北州松山街の内湖庄と臺南州



・竹椅仔(上)
と竹椅(下)



・藤細工・

従來香港から南洋藤を輸入して、相當に發展してゐたが大東亞戰以來ぱつたり輸入が止つて、臺灣島内産のものを徐々に使ひ出してゐる。然し島内産だけでは自給自足といふわけに行か

新豐郡下の關廟庄があり、家々戸々、老幼を問はず、僅かな工具と器用な手付で千變萬化の製品を産出してゐる。就中關廟庄は他に比類のない竹細工の部落で、古い傳統を踏んで來たゞけあつて極めて組織的に運営して居り、最近産業組合の統制下に技術の指導製品の検査、販賣斡旋などを合理的に行つて斯業の發展に邁進してゐる。昭和十六年の調査によれば該地方の竹細工業者は一、四八三人、年生産額二十萬八千餘圓であつた。全部落民は主に農耕に従事してゐるが部落人口の一五、〇〇〇人に對し、約一割弱が竹細工で、殆ど婦女子の家庭副業になつてゐる。

竹編組製品種目は大體次の通りである。

美術的なものに檳榔籠（檳榔の實を入れて客に接待する場合に使用する）謝籠、棧籠（冠婚葬祭に使ふ供へものや食物を入れる）、花籠などがあるが實用向なものには米籠、糞箕（土や塵を運ぶもの）、味噌瀝、筴、漁籠、簍仔、箭湖（干ものを使用するもの）、卓簍（食卓上の食物を覆ふもの）、飯瀝（御飯をすくふもの）、篩、米筴、臺灣笠の地下地編み等枚擧に遑なく用具としては實に生活全般に利用されてゐる。編組に使用する竹材は主に長枝竹、桂竹である。

あず、又臺灣籐は漂白しにくいいため、細工品には不向とされてゐるが實用の點から云へば却つて堅牢であり味があると思ふ。

以上の關係で籐細工は一時衰退の現状にあるが最近高雄州では○から籐の芯が豊富に入ることになり、共同製作所を組織しつゝある。

籐製品には寢臺の床板、バスケット類、籠、乳母車、枕、卓子、椅子、安樂椅子等があり、特に丸籐を曲げて高砂族の彫ものを施したステッキもある。

優秀な製品としては高砂族の籐籠、背負籠等があるが其の他は香港や廣東あたりの比ではない。生産地は新竹、嘉義、北港、高雄を主とする。

・蘭草編組・

熱帯地の莞蘭には夫々變つた種類があつて、その繁殖力も誠に旺盛である。年に二回の收穫があり肥料のやりやうによつては、三回は樂に採れると云ふ。主に沼澤地や鹽分地帯に繁殖するが種さへ植付れば増える一方である。三角蘭(俗に大甲蘭とも云ふ)、七島蘭(俗名鹽草、三角蘭とも謂ふ)等があるが七島蘭の如きは全島産額の三分の二は臺南州下に産出し、大甲蘭は殆ど新竹、臺中兩州下に生産される。大甲蘭は細く、細かに裂き得るので帽子、袋物、敷物、座布團、草履表の細工に適し、七島蘭は纖維が粗大なので臺灣莫塵、疊表、買物袋、アムペラ容器、又は繩に撚つて敷物を編むに使用する。最近、此の需要が非常に多くなり、以前は内地にも移出してバ

ルブ原料に使用されてゐたが昨今は島内消費だけでも不足を感じる位である。

現に臺南州に於いては去る四月より蘭草集荷配給組合が結成されて、その下に加工生産組合があり、専ら業者を一元的に統制して生産の合理化を計つてゐる。

従來、臺南州の新營、新化、北門、新豐、東石諸郡は原料の産地として、又加工生産地として、その製品を全島に供給するだけの能力を持つてゐた、此の地方には技術と勞力の餘剰があるので筆者は昭和十六年五月から北門郡學甲庄に於いて、買物袋、スリツパ其の他數種の製品を指導し、更に不用蘭草を繩にして敷物を編ませるやうにした。その結果去る三月の調査に依れば年産額參拾萬圓といふ驚異的成績を示してゐる。

一方では疊表の不足を緩和するためにもその生産を強化しつゝある。關廟が竹細工の部落であると同様に北門郡學甲庄は蘭細工の村落である。又新營郡の後壁庄はアムペラと莫塵の部落で各地各所に夫々變つた品種を生産してゐる。

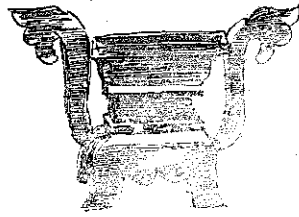
大甲蘭の加工地は殆ど新竹、臺中兩州下の海岸寄りの通霄、大甲清水地方で、領臺前から既に其の名がある。従來は大甲蘭編組だけであつたが、その後總督府當局の積極的な研究指導により色々の帽紙原料を供給して編ませ、その製品を世界各國に輸出したが支那事變以來海外輸出も停頓し、爾後、國內消費の製品に轉換した。又最近簡單な織機で短い大甲蘭を織いで織布とし、座布團、枕、袋物などを加工してゐるが如何にしても手編程の佳さが出ない。その他、

棉織維を利用して、模様ある織布にして袋物を加工してゐるが素晴らしい勢で市場に氾濫してゐる。これも原料と加工によき指導を與へれば發展性はあると思ふ。

其他林投織維、月桃織維も廣範圍に亘つて利用されてゐる。竹編組に次ぐのは蘭編組で將來益々發展伸長する餘地があると確信する。

・金 工・

臺灣の金銀細工は昔から相當に洗練された技法を持つてゐたが、



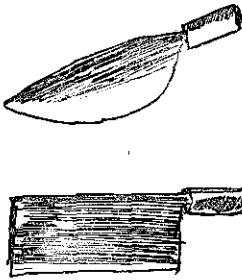
・錫 香 爐

これは専ら装身具と臺灣風物を現した觀賞用の作品が多い。畏くも 皇室への獻上品を始め一般人士の紀念品などを製作して、其の技を誇りたま〜展覽會や博覽會にも出品して褒賞を受けた者もある。技術が精緻で一種獨特の味のあることは他に見られない。金銀

加工を許されない今日では、此等の工人は殆ど失業状態で生活せんがために鍼力職に轉向したものもある。

曾つてその名を知られた傳統のある老舗は臺南金足成、舊足成號も勿論閉店の状態にある。

・臺灣刀(料理用)



次に一般の鍛冶屋では主に農具と日用金物を作つてゐるが大した製品はない。唯臺灣郊外の士林街からは士林刀の有名なものが出てゐる。柄は牛角で出来て一種變つた形態(圖録参照)をなし、丈夫で信用がある。鉞、剃刀もあるが大體支那風である。其他錫、眞鍮の食器、燭臺、香爐、門環等もよいものがあつた。

・染 織・

在來の織物には芭蕉布、鳳梨布、纏足用テープ(脚白)及び高砂族の立派な麻布があつた。一時木綿の小幅ものを家内工業的に作つてゐたが綿糸の配給が停止されたために今は全々織られてゐない。

臺中州鹿港地方では絹布を織つてゐると聞くが筆者は未だ實地を見てゐない。臺南州北門地方は昔から織物の盛んな土地であるだけに失業者も多いので、筆者は今秋代用糸を以つて織らせる準備を急いでゐる。

染料も従來は天然染料を使用してゐたが、科學染料の進出と、諸織物類の内地依存が多くなつて衰退してしまつた。私の試験した天然染料では、泥藍、薑黃、薯榔、椶皮、蘇木、檳榔の實等は染着力と濃度が極めて優秀なので、そのコストも化學染料とは大差なく、只染める工程が面倒なだけである。今後大いに利用すべきものと思ふ。

次に刺繡の技術も又本島人間に廣くゆき亘つて自家用鞋、スリッパ、脚絆(色褲)、腹掛、財布等あるが簡素で美しい。高砂族の刺繡も誠に優れたものがあつたり、縫ひとり、クロスステッチ風のもの

る。原色とは云へ色彩の調和は實に新鮮な感とする。圖案は殆ど幾何學的紋様に終始してゐる。かのパイロン族は蛇や人物模様を好んでデザインに取り入れてゐる。

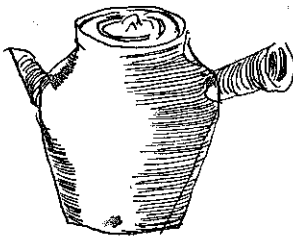
・陶器・

從來本島の陶器は臺北州鶯歌庄、南投、新竹州の苗栗、臺中州の南投街、臺南州の嘉義市の諸地方に粗磁として知られてゐたが最近やつと内地の業者がその有利性に着眼してきて、天然瓦斯の湧出する苗栗に大資本を以て工場を建設した。臺灣に於ける窯業は寧ろ遅いと言ひたい位で、内地の生産制限と移入難に依り始めてあつた形である。今迄南支那即ち廣東や福建の安價な跣趾釉が風靡してゐて、實に佳いものがあつたが、今は全然入つて來ない。これも一時内地の機械製品に壓倒された形であつたが僅かに島内に残つてゐた命脈も近頃一齊に勢が開始して來た。

生産品には壺、甕、鉢、土鍋等があるが實用一點張りで一般の需



・藥用急須



要を満してゐる。油壺、食鹽壺、水甕には良いものがある。又土鍋の形も面白く親しみを感ずる。製造技術は極めて原始的とは云ひ乍らその熟練さには驚くほかはない。瓦、煉瓦の工場も大規模に經營されてゐるが特筆すべきものがなく、今や臺灣窯業の轉換期であつて佳い製品が生れることを念願して止まない。

・漆器・

漆の原料は臺南州龍崎庄と新竹州苗栗に栽培されてゐるが自給自足といふ域には達してゐない。桐油も臺南州斗六街に生産してゐるが軍需を除いては十分とは云へない。

漆工場として大規模で一貫作業をやつてゐるのは理研の漆工場でははめぼしいものはない。同工場では一般家庭向のものを作つてゐるが沖繩あたりのスタイルに臺灣趣味を加味したもので、徐々に軌道に乗るものと期待する。尙該工場では臺灣青年の職工養成を試みたが非常に成績が良好であると聞く。

・角細工・

牛角、蹄、牛骨の原料が豊富にあるので、従つて此等の加工も古から行はれてゐた。製品には土産品の水牛角、煙草盆、ケース、茶托、酒杯、紙ナイフ、ボタン、印材、醫療機器の部品、角櫛、角篋等々があるが、畜産工業會社の工場を除いて他は家内工業的に經營されてゐる。

のは全島僅かに三十軒しかない。製品には特に推奨すべき優秀なものがない。

・其の他・

製紙業には王子製紙や鹽水港製糖のバルブ工場があり、その他小規模の竹紙工場やちり紙を製造する工場がある。紙の原料は可成り豊富にあるが概して振はない。

尙新竹には薄草紙といふのがあつて、主に造花に使用される。製紙と云へばすいて作ることを聯想するが、これは圓木の原料を左手で回轉させながら右手で鋭利な長い庖丁を以つてむくのである。此の技術も熟練を要し、機械の力では不可能らしい。戦前は阿米利加に多量に輸出したが今は滿洲、支那に出してゐる。臺南市も亦造花で有名であるがために草花街といふ町名が残つてゐて、色とり／＼の美しい製品を店頭に飾つて通行人の足を引止める。

工藝産業としてあれこれと主なものを拾つて見たが未だ／＼澤山あると思ふ。紙面の都合上詳細に互つて記すことが出来ないの極めて概略の記述に終つてしまつた。各部門の詳細な調査報告は後日の發表に譲ることにする。

むすび

臺灣を内地の一地方として考へるとき、内地同様土地の傳統があり郷土色があることは言ふ迄もない。又天恵的な原材料が豊富であり、技術天分に恵まれ、加ふるに餘剩勞力があるので之等を活かし

て決戦下の國民生活用品や軍需品を生産することは刻下の急務であると言はなければならぬ。

これには正しい指導機關を必要とし、一元的に統制の強化を計り不急不要製品の生産を差止めて原料資材の有效適切な使用を計ることが大切だと思ふ。又一方製作者の精神訓練及び文化性の向上を圖り、生活の改善に努め他面名譽ある産業戦に参加することにより一層國家觀念を啓培すれば臺灣に於ける斯業の振興も期して待つべきであらう。

(筆者は臺灣生活文化振興會理事)

(二〇七頁より續き)

陶磁工藝に於ける人格の表現であります。しかしこれは光悦のみに限られて、繼ぐ人のないことは惜しむべきでありまして、今後陶磁工藝は、光悦の境地を目標として進むべきであると思ひます。

今日、日本人が幾何學的表現を持つ陶磁器を作つても、それは西洋人の作品に及ばないでせう。又、支那人の様に土をもつて玉となす行き方も合はないでせう。日本人は人格の表現といふ事を目標とするところに、今後の日本陶磁工藝の發展の道が残されてゐると思ふのであります。

(大阪市立美術館學藝員)

關西支所録